

vol.103

2019年3月号

公益財団法人国際障害者年記念 ナイスハート基金

〒105-0022 東京都港区海岸 1-4-26 ゆうらいふセンター

電話：03-3434-2170 FAX：03-5401-0681

URL:<http://www.niceheart.or.jp/>



なほはあと



表紙／写真 ユニバーサルスポーツワークショップ集合写真	1
報告／ユニバーサルスポーツワークショップ	2
2019年度事業計画	6
ふれあいのスポーツ広場日程表 / 賛助会員募集	8



誰もが楽しくスポーツできるプログラムを

ユニバーサルスポーツワークショップ

主催：日本福祉大学

仙台ユニバーサルスポーツ研究会

西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会

(公財) 国際障害者年記念ナイスハート基金

日程：2019年2月22日～2月24日

会場：日本福祉大学美浜キャンパス スポーツ科学部学部棟 SALT0

当基金は、ふれあいのスポーツ広場のプログラムのご指導やご提供をいただいている、日本福祉大学スポーツ科学部 学部長 藤田紀昭先生、兒玉 友先生、仙台ユニバーサルスポーツ研究会代表の佐藤一樹さん、西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会の皆様のご協力のもと、障害の有無に関わらず楽しみながら取り組むことのできるユニバーサルスポーツのワークショップを実施致しました。

今回は、2017年に日本福祉大学スポーツ科学部が開設された同時に整備された新校舎スポーツ科学部棟「Sports Lab SALT0」を利用させて頂きました。車いす利用者を想定されたゆとりあるスペースやスロープなどの配慮が特徴的で、このワークショップを実施するに相応しい会場でありました。

参加者は、日本福祉大学18名、仙台ユニバーサルスポーツ研究会1名、西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会11名で、初めて西九州大学の方々にご参加頂きました。

1日目は、初顔合わせの参加者が非常に多いということもあり、自己紹介を兼ねたアイスブレイクからスタートしました。次のゲーム歩数計の数をグループごとに競い合うゲー



1日目 アイスブレイク

ムになると、みるみる表情が柔らかくなっていき、必死に歩数計を動かす学生の真剣な姿が印象的でした。体を動かした後にNASAゲームで頭の体操を行い、学生たちの活動紹介に移りました。

日本福祉大学は動画も交えながら詳細に3つの実習のコースを発表し、西九州大学は6つの活動内容を障害者へ配慮された工夫等を紹介しながら発表しました。アイスブレイクで和んだのも束の間、学生からの質疑応答はなく、次の講義に進みました。

藤田先生のユニバーサルスポーツについての講義では、講義の前段階としてこの集まり

の趣旨そして成り立ちから始めて頂き、そして3日間のミッション（新しいプログラムづくり / 3日目交流会のマネージメント）を説明され、学生の表情からは身の引き締まる思いが見受けられました。

1日目の最後は体育館に移動して、名前を呼びあって行うパス交換等でリラックスされてから、4グループごとにプログラム作りのテーマが与えられ、明日の発表に備えて終了となりました。今回は、勝ち負けあり、勝ち負けなし、という2パターンとなり、今までとは異なる切り口の課題となりました。

2日目の午前中は、前日の課題に向けてのプログラム作りと発表を行い、続けて良い点・改善点の意見を出し合い共有しました。勝ち負けなしのプログラムには特にユニークなゲームが多く、絵画やマーカーコーンや音楽を組み合わせるオリジナルな演出を表現されていました。午前中のみ同志社大学OBの方にもご参加頂き、よりユニバーサルに、より楽しくなるための工夫をアドバイスして頂きました。

午後は明日の交流会に向けての準備にとりかかりました。まず、司会者2人を選抜された後、4グループが1プログラムずつ担当することとなり、準備体操の役割分担も含めて各パートごとに話し合いました。

1回目のリハーサルでは、実際のプログラムはせずに、誘導、立ち位置、会場の使い方、

準備等に重点を置きました。2回目の全体リハーサルでは、西九州大の院生の方が音響を担当して、はじまりから終わりまで一通り実践されました。その後各指導者から、「分かりやすい言葉で」や「子供と目線を合わせて」等、貴重なアドバイスを頂き、2日目は終了となりました。

3日目の交流会の参加者は、知多南部地域自立支援協議会美浜町部会他の皆様にご多大なご尽力を頂き、地元の特別支援学級・特別支援学校の子どもたちを中心に、付添の方等も含めて総勢40名弱の方々にお越し頂きました。

続々と子供たちが入場するにつれ、子供と一緒に走り回って笑顔がはじける学生達。子供たちの元気さに呼応するように緊張が和らいで行きました。

あさのあいさつ、注意事項、準備体操とプログラム通りに進み、ニュープログラム、「もうじゅうがり」の出番が来ました。グループになれなかった方に名前と好きな食べ物を話して頂くこのゲームで、子供ではなく、付添の方にその役割が当たってしまいましたが、上々の滑り出しとなりました。

続いて、「ぐるぐるぼん!」。学生がパラシュートの中央の穴から顔を出すだけで、子供たちの笑い声が響き、大盛り上がりそのまま一旦休憩となりました。

休憩後、「ほーるいんわん」からは付添等ほぼ全ての方にご参加頂き、最後の競技「ふうせんばれー」では僅差の勝負となり、記念品贈呈、お見送りまであっという間に時間が流れていき、無事に終えることが出来ました。

最後になりましたが、3日間のワークショップにご参加頂いた全ての関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。



2月22日



プログラム

[2月22日]

13:25 オープニング

・アイスブレイク

自己紹介ビンゴ / 歩数計対決 / NASAゲーム

14:20 全体セッション

・活動紹介 (日本福祉大学 / 西九州大学)

15:10 全体セッション

・ユニバーサルスポーツについて

「藤田 紀昭 (日本福祉大学教授)」

15:50 グループワーク

・アイスブレイク

・グループごとのテーマ発表 / 4グループでのプログラムづくり

17:30 終了

[2月23日]

8:50 グループワーク

・ラジオ体操 / 4グループでのプログラムづくりの続き

勝ち負けありと勝ち負けなしの2パターン

(勝ち負けなしは下記の道具なしでもOK)

グループA / グループB : パラシュート使用

グループC / グループD : ジャンボール使用

10:30 グループ発表 / 良かった点・改善点の共有

13:00 グループワーク / 役割分担・プログラム完成へ

14:15 全体セッション / 部分リハーサルとブラッシュアップ

15:00 全体セッション / 全体リハーサルと明日への整理

16:30 終了

[2月24日]

8:30 交流会準備開始

10:00 スポーツ競技の体験と交流会スタート

・子供19名 / 大人14名 / 関係者5名 合計38名

1 あさのあいさつ

10:02 2 じゅんびたいそう

10:05 3 もうじゅうがり

10:15 4 ぐるぐるぼん!

10:30 休憩

10:50 5 ほーるいんわん

11:05 6 ふうせんばれー

11:20 7 おわりのあいさつ

8 記念品贈呈⇒記念撮影

11:25 終了

2月23日



2月24日



～ 参加者の感想 ～

・参加者に楽しんでもらうためにはどうしたらいいか、誰でも簡単にできるようなルールの工夫など、考える時間が多くてとても難しく大変だったが、参加者に喜んでもらう、楽しんでもらうためには、まず自分たちが楽しいという気持ちを持てるようになることが一番重要であるということを知った。

・今回の体験で、ユニバーサルスポーツへの理解や実践においてのポイントなどを学ぶことができた。このことは非常に大事なことであるが、良いコミュニケーションの取り方についても勉強になることが多かった。子供へのコミュニケーションや初対面の人との距離を縮めるコミュニケーションなどを学ぶことができたので、今後活かしていきたい。

・子供たちとコミュニケーションを取ろうと思い、積極的に自分から話しかけた。特定の子供たちとしか話さなかったのもっと色々な子供たちとコミュニケーションを取るべきだった。

・ユニバーサルスポーツを学生で作る、プログラムを考えて実際に運営するというのはなかなか経験できないことなので、非常に貴重な機会だったと思った。運営してみて、子どもたちが楽しそうに参加してくれているのがとても嬉しくて、このワークショップに参加して良かったと思ったのと同時に、スポーツの良さや楽しさを改めて感じた。

・いろいろな意見を出し合って一つのものを完成させようという意欲が出てよかった。0から1を作り出す難しさを実感した。

・自分で創作することの難しさを痛感した。今回は2日程しか考える時間がなかったため、グループのメンバーがいなかったら、完成しなかったなと思った。子ども達が喜ぶ姿やワクワクしている姿を観れた時はとてもやりがいを感じたし、頑張ってきたよかったです。障害の有無や、年齢の差に関わらず、みんなが同じ舞台上でスポーツを楽しんだり、時には競い合ったり出来るような活動を作り出したり、サポートする役もいいなと思った。

・私の班では意見を言う人が割と多かったと思う。そのため様々な意見が出てぶつかり合った。そこで私はその人たちの間に入りお互いの意見を聞き、双方の合致点を見つけ仲介役をした。双方の愚痴も聞くことがあり非常に大変だった。意見が出るのはいいことだが、それをまとめることが一番大切で、まとめるという作業が僕たちの班では足りなかった。

・新しいプログラムを考えるのは難しいと思った。道具をいくつも使って行うようなプログラムを考えると難易度が高くなってしまい、説明するのも難しくなると思った。だから、なるべくシンプルに行えるようなものを作る必要があると感じたし、もっと頭を柔らかくして、発想を膨らませていく必要があると感じた。

・この3日間で、今までまったく知らなかった相手と一緒にグループワークをして、意見を出し合って、1つの競技を作り上げて、ご飯を一緒に食べて、同じ部屋で寝て、なかなかない機会をこういった形で今回経験する事ができて、私にとってとても身になる内容でした。

2019 年度事業計画

設立より、当基金が目指してきたことは、障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現であり、様々な視点で障害のある人たちへの課題を考える機会をつくることを目的とした事業への取り組みを、引き続き展開していきたいと考えております。

1. ふれあいの広場事業

(1) ふれあいのスポーツ広場の実施



障害のあるなしに関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。

平成4年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、全国的に展開しております。

障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムとして、ユニバーサルスポーツをキーワードに、各種スポーツ団体や障害者スポーツの研究者との検討により、多くのプログラムを創造し、実施しております。

現在、日本福祉大学教授の藤田紀昭先生を中心とする大学生のみなさんに、独自のユニバーサル・スポーツプログラムを提供いただき、実施すると共に、西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会、仙台ユニバーサルスポーツ研究会、（公社）日本エアロビック連盟、（特非）日本障害者フライングディスク連盟のみなさまに、ユニバーサルなプログラムを提供いただいております。また新たに障害者スポーツに関わる学生さんたちにも協力の輪に加わっていただく予定です。

実施時期 2019年4月～2020年3月
開催地域 全都道府県において1会場を予定
開催数 全国47会場（予定）

共催 全日本自動車産業労働組合総連合会
後援 内閣府、スポーツ庁、開催都市等
協力団体 日本福祉大学 Echos
西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会
仙台ユニバーサルスポーツ研究会
（公社）日本エアロビック連盟
日本障害者フライングディスク連盟

(2) ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施



障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。

平成30年度には、東日本大震災の被災地である宮城県内および北海道胆振東部地震の被災地である北海道内において、障害者施設等を会場に体験いただきました。

今年度は、西日本豪雨災害の被災地である広島県内を中心とした会場で、理解を広げる活動を行って参ります。

実施時期：2019年9月
対象者：障害のある方、教職員、一般等
ファシリテーター：
庄崎 隆志氏（office 風の器主宰・俳優・演出家）
メイミ氏（漫談家・特定非営利活動法人笑顔工房 理事長）

2. 開発、普及及び育成事業

(1) ユニバーサルスポーツのプログラム開発 ワークショップの実施



当基金が設立以来、実施を重ね開催規模を広げている「ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場」事業では、多くの障害者スポーツに関わる指導者の助言や協力のもと、従来にない新たな競技を開発し、プログラムとして提供してまいりました。日本福祉大学スポーツ科学部教授である藤田紀昭先生が、学生のみなさんと協議を重ね開発してきたプログラムです。

過去5年にわたり、ユニバーサルなスポーツ競技の新たなプログラムを開発することを目的として実施をして参りました。平成30年度は、愛知県の日本福祉大学において実施し、障害のある子どもとそのご家族を対象として、スポーツを楽しむことのできるプログラムづくりをテーマに開催いたしました。

実施時期：2020年2月の3日間

会場：西九州大学他

講師：藤田 紀昭氏（日本福祉大学スポーツ科学部教授）

佐藤 一樹氏（仙台ユニバーサルスポーツ研究会）

(2) 各事業報告書の発行

障害のあるなしに関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、報告書として整理し配布いたします。

(3) ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に努めている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年4回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めていきます。

発行月：6月、9月、12月、3月

発行数：各2,000部。

3. 調査研究事業

(1) ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究～ 障害福祉サービス事業所を拠点として～の実施

当基金の設立目的である、よりよい社会づくりのために協働し共生社会づくりへの一助とするため、障害福祉サービス事業所及びユニバーサルスポーツの提供団体と連携し、障害の有無に関わらず行うことのできるスポーツプログラムの充実に寄与することを目的に、この研究を実施いたします。

①障害福祉サービス事業所におけるユニバーサルスポーツの取組の状況を明らかにする。

②地域を基盤とした、社会参加のためのユニバーサルスポーツの実例と障害福祉サービス事業所との連携の状況を明らかにする。

実施概要

実施主体 有識者による研究会

研究の期間 2年間 2019年度～2020年度

調査対象 初年度 事例研究

ユニバーサルスポーツ実施団体等の実施するユニバーサルスポーツプログラムの事例研究

障害福祉サービス事業所等のスポーツに関わる活動の事例研究を行い、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

ふれあいのスポーツ広場上半期の開催日程

自動車総連の皆様の心強いご支援により全国各地にて展開している「2019年度ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場」は、4月より上半期の開催を迎えます。現在25会場を予定しております。

No.	開催地	日程	会場
1	鹿児島（鹿児島）	4月8日（月）	鹿児島市民体育館
2	宮崎（宮崎）	4月15日（月）	宮崎県体育館
3	宮城（仙台）	4月20日（土）	宮城広瀬総合運動場体育館
4	岐阜（関）	4月23日（火）	せきしんふれ愛アリーナ
5	栃木（上三川）	5月11日（土）	日産自動車栃木工場体育館
6	岡山（倉敷）	5月11日（土）	倉敷市立東中学校
7	北海道（音更）	5月14日（火）	サンドームおとふけ
8	徳島（藍住）	5月14日（火）	藍住町町民体育館
9	香川（善通寺）	5月15日（水）	善通寺市民体育館
10	富山（富山）	5月18日（土）	富山市八尾スポーツアリーナ
11	長野（東御）	5月18日（土）	東御中央公園第1体育館
12	岩手（北上）	5月20日（月）	北上総合体育館
13	山形（河北）	5月21日（火）	河北町民体育館
14	福島（須賀川）	5月25日（土）	須賀川アリーナ
15	茨城（筑西）	6月1日（土）	筑西市立下館総合体育館
16	京都（京都）	6月2日（日）	京都市障害者スポーツセンター
17	奈良（橿原）	6月3日（月）	ジェイテクトアリーナ奈良
18	高知（南国）	6月4日（火）	南国市立スポーツセンター
19	愛媛（松山）	6月5日（水）	愛媛県総合運動公園体育館
20	福井（越前）	6月9日（日）	越前市 AW-1 スポーツアリーナ
21	石川（金沢）	6月10日（月）	いしかわ総合スポーツセンター
22	福岡（北九州）	6月10日（月）	北九州市立総合体育館
23	兵庫（姫路）	6月12日（水）	広畑体育館
24	広島（広島）	6月15日（土）	マツダ体育館
25	山口（防府）	6月16日（日）	ソルトアリーナ防府

ナイスハートなご支援をお願いいたします

私どもナイスハート基金は、障害の有無に関わらず、共に楽しむことのできる内容の事業を行い、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現への一助となるべく活動を続けております。

厳しい経済状況の中、より多くのみなさまにご支援をお願いするため、賛助会員を募集しております。是非ご検討をお願いいたします。

【賛助会員会費】 法人・個人問わず1口1万円

【ご入金先】 郵便振替 00180-7-70417

ナイスハート基金

